



教員が研究の楽しさを語る

第311回(12/2)鈴木彩香先生推薦 ブックガイド



※掲載されている本はN棟3階 あかりんアワーのコーナーに配架されます。

Book1

日本語の逸脱文：枠からはみ出た型破りな文法

著者：天野みどり著

出版：教養検定会議，2023.2

コメント：「暗記する文法ではなく「考える文法論の世界の探索」」への手引きをしてくれる良書です。日本語の「逸脱文」というテーマもキヤッパーでありながら、「型」があるから「型破り」が許されるということで、日本語の文法規則についての堅実な観察に基づいた分析を見せてくれます。

この本を読む→https://opac.ll.chiba-u.jp/opac/opac_link/bibid/FB10139867

Book2

ケジメのない日本語

著者：影山太郎著

出版：岩波書店，2002.9

コメント：日本語について知りたいと思う時、何か他の言語と比較することによって日本語の姿がより良く見えてくることがあります。この本は、英語との比較を通して、普段気にも留めていなかったような表現に見える日本語の面白さを教えてくれます。

この本を読む→https://opac.ll.chiba-u.jp/opac/opac_link/bibid/FB00059536

Book3

煩悩の文法：体験を語りたがる人びとの欲望が日本語の文法システムをゆさぶる話

著者：定延利之著

出版：凡人社，2016.12

扱っている言語現象はもちろん、文章自体も非常に面白く、きっとあつという間に読めてしまうのではないかでしょうか。小難しい言葉は使わずに、しかし著者の絶妙なセンスで本質をとらえつつ、日本語の面白い現象を鮮やかに切り出して見せてくれる本です。

この本を読む→https://opac.ll.chiba-u.jp/opac/opac_link/bibid/FB10139775

